

1 目的

(1) 指導力向上

教科指導の充実を図るために、専門的な指導を通して、教員個々の資質向上を図ります。

(2) 豊かな人間性の育成

生徒一人一人が互いに認め合い、尊重し合い、共感し合って温かい人間関係をつくろうとする心の育成を図ります。

2 内容

(1) 指導力向上

教科指導について、美和地区在住の滝本清三先生（木田塾道場 尾張合気会 会長八段）を講師に招き、教科指導（保健体育）で武道指導（合気道）として体育科教諭を中心に2年生女子生徒を対象にして実施しています。本年度も、瀧本先生の他に村瀬正卓氏（合気道・護身術清流館/元教員）と瀧本先生のお弟子さんである林慶氏（元PTA会長）を加えた3名をお迎えし、二日間（12/4・5）実施しました。今年度は、体育科以外の教科の若手教員も参加し、武道指導に当たりました。

(2) 豊かな人間性の育成

ア 毎年、1年生対象に命の授業を行っています。本年度は、言葉やコミュニケーションの大切さを知り、自分や他人を大切にしようとする心の育成を図るために、チャイルドラインの方を講師に招き、アサーションに関する授業を実施しました。（11/27・28）

イ 豊かな心の育成に向け、人権に関する価値や重要性を感受させ、共感的に受け止めさせることで、他者を思いやる心と自己肯定感の向上を図ることを目的とし、「いのちと夢」をテーマに、音楽を通して全国で講演を行っている合唱作曲家の弓削田健介氏を昨年度に引き続き講師としてお招きし、「人権講演会」を実施しました。（11/13）

3 評価

(1) 指導力向上

新学習指導要領のもと、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善が重要視されています。変化の激しい時代を生きるため、学び続ける姿勢は子どものみならず教員にも求められます。

本年度も各教科で授業展開を工夫して取り組みました。とりわけ本年度は、外部講師による武道指導に他教科の若手教員が参加・参観することで、個々の指導の視野が広まり、教師としての力量向上につながりました。



【2年生保健体育科の授業】

(2) 豊かな人間性の育成

ア 「命の授業」は、毎年1年生を対象として継続実施しています。今年度は、チャイルドラインの方を講師としてお招きし、言葉遣いとコミュニケーションについてのアサーションに関する授業を2日間でクラスごとに6クラスの授業を実施していただきました。

授業では、教員のロールプレイを子どもたちが観察し、そのやりとりでふさわしくない言動について指摘し、改善案を出し合いました。教員のロールプレイに興味をもって見入りながら、よい雰囲気で見入る姿が見られました。修正したやりとりを見直し、何が大切か、日頃の自分たちの言動はどうか振り返りを行いました。

生徒にとって、自他を大切にする気持ちを高めるよい機会となりました。

イ 「いのちと夢」をテーマに、音楽を通して全国で講演を行っている合唱作曲家の弓削田健介氏を昨年度に引き続き講師として招き人権講演会を実施しました。震災を経験された方の映像などを交えながら、命の尊さ、夢をもつことの大切さについて講演していただきました。どの生徒も目を輝かせながら、真剣に話を聞くことができました。弓削田氏の歌や音楽を交えながら、未来に向かって生きる勇気や人への感謝の気持ちの詰まったメッセージが、生徒たちの心に強く響きました。本校では3度目の講演でしたが、生徒は熱心に耳を傾け、生徒一人一人が「いのちと夢」について見つめ考える時間となりました。



【1年生「命の授業」】



【人権講演会】

4 課題

特色ある学校づくり推進事業により、生徒は通常の教科の授業や学校行事では体験できないことを学ぶ機会を、また、教師は指導力を向上させる機会を得ることができました。

今後も、学びや学んだことを活用する場を通して、自己の成長が実感できる場を工夫してつくりだし、いかに生徒の自己肯定感・自己有用感を高め、主体性を伸ばしていくかが課題となります。

次年度以降も引き続き、生徒や保護者・地域からの信頼を得るために、教育活動のさらなる向上や発展を目指して「当たり前のことが当たり前にできる生徒・教師」をキーワードに、全職員が力を合わせ質の高い教育活動を展開していきたいと考えています。